

あまがすき

We Love AMA

- 特集:地域コミュニティに参加してみよう
- コミュニティ協議会の活動のようす
- シリーズ:まちを支える団体の皆さん
“市民の健康福祉を支える活動”
- あまのあれこれ事典
“あま”と“すっぽん”その2

■特集:地域コミュニティに参加してみよう ~住民に寄り添った住みよい地域へ~

私たちの身近な地域で貢献活動が続ける自治会や地域コミュニティ。特に東日本大震災後には、人々の絆やふれあいを大切にする動きが始め、地域コミュニティが見直されつつあります。今回は、市内のコミュニティ協議会を例に、住民の暮らしに深く関わっているコミュニティ活動について特集します。

コミュニティ活動の目的

地域住民が協力して地域の課題解決に取り組み、より住みやすい地域を創っていくことです。



コミュニティ協議会の仕組み

コミュニティ協議会とは、地域内で活動する自主防災会、寿会、ラジオ体操の会など、多様な団体が連携・協力できるように作られた組織です。



市内コミュニティ協議会の主な取り組み

あま市内には14のコミュニティ協議会があり、登下校の子どもの見守り、高齢者支援、クリーン活動、自主防災、お祭りの開催など、それぞれの地域に寄り添った特色のある活動を行っています。これらの活動は自発的に行われ、住民同士が顔の見える関係を築いています。特に、自助・共助の意識を持つきっかけともなり、災害時はもちろん日頃の支え合いのためにも、コミュニティ協議会は欠かせない存在と言えるでしょう。

コミュニティ協議会の活動に参加したい方、新しくコミュニティ協議会を立ち上げたい方は、ぜひ、市民活動センターに相談ください！

あま市のコミュニティ協議会

桂地区コミュニティ推進協議会・下萱津コミュニティ推進協議会・本郷コミュニティ推進協議会
 沖之島地区コミュニティ推進協議会・坂牧地区コミュニティ協議会・上萱津地区コミュニティ協議会
 鯉橋地区コミュニティ推進協議会・丹波地区コミュニティ協議会・花正地区コミュニティ協議会
 蜂須賀地区コミュニティ推進協議会・金岩地区コミュニティ協議会・花長コミュニティ協議会
 伊福地区コミュニティ推進協議会・甚目寺コミュニティ協議会

※計14コミュニティ協議会 順不同

参加費無料

■第4回 コミュニティ交流会

～今こそ子どもを守る新しい地域づくり～

日時:令和3年6月19日(土)

午後1時30分から午後4時30分まで

会場:七宝産業会館大会議室

講師:IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」代表

川北秀人氏

申込みフォーム
こちらから



■2021年度

第2回 あまテラススクールのお知らせ

～SNSにチャレンジ!～

フェイスブックとLINEを使ってみよう!

日時:令和3年7月9日(金)

午前10時から午前12時まで

会場:市民活動センター

HPこちらから



新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、変更となる場合があります。詳細はセンターへお問合せ下さい。

お問合せ・申し込み:あま市市民活動センターまで ☎052-445-1900

地域を支えるコミュニティ協議会。多くは自治会との連携・協力のもと、住民の暮らしに寄り添った活動を行っています。今回は市内の5つのコミュニティ協議会の地元への思いにあふれる活動の様子を紹介しつづけます。ぜひご覧ください。



金岩地区コミュニティ協議会

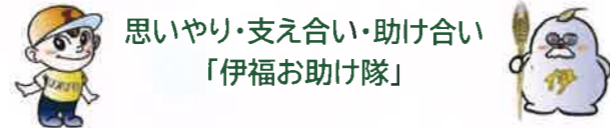
一人ひとりの思いが大きな連帯感へ クリーン活動



偶数月の第4日曜日に行われているクリーン活動は、金岩コミュニティの主な活動の1つです。4月25日(日)には、新調したばかりの赤いビブスを身につけた地域住民が自主的に参加。三々五々金岩地区に繰り出しゴミ拾いをする様子は、環境美化への啓発にも一役買っていました。定期的に開催されているので目立ったゴミは見当たりませんが、車からのポイ捨て防止が目下の課題とのこと。最近では、家族と一緒に参加する子どもたちのほほえましい姿も見られ、世代を越えた地域の連帯感にもつながっているようです。参加者たちに気負った様子はなく、すっかり定着しているクリーン活動。顔の見えるお付き合いと地域への愛着が、ゴミのないきれいなまちを作っています。



伊福地区コミュニティ推進協議会



思いやり・支え合い・助け合い 「伊福お助け隊」

安心安全な地域づくりをめざして活動を続ける伊福コミュニティでは、令和2年7月から新たに「伊福お助け隊」の活動を始めました。高齢者が住み慣れた地域で自立して暮らし続けられるよう、ゴミ出し・庭の草取り・電球交換など、介護保険だけではカバーできない日常生活のちょっとした困りごとを、頼んだらお手伝いする取り組みです。コロナ禍で外出を自粛して、孤立するなど不自由な思いをする高齢者が多い中、民生委員と一緒に訪問して声掛けをするなど、PR活動や見守り活動にも積極的に取り組んでいます。利用した方の話を聞いて、別居中の娘さんが、実家で独居の母親の様子を気に掛けるようになり、定期的に様子を見にくるようになった事例もあるそうです。家族だけではなく「地域の見守り」の意識の変化にも繋がっているようです。



沖之島地区コミュニティ推進協議会

自然体験を通してつながる 地域と子どもたち

設立時より地域のクラブや団体がそのまま組織の部署を担い、運営に関わっている沖之島コミュニティ。田畑が広がるこの地域では、子ども会と連携して特徴のある活動が行われています。

稲作体験では、種まきから収穫まで機械を使わず子供たちが自分の手で行います。稲刈り後のごほうびは収穫祭でのつきたてのお餅。自分たちが育てたお米でついたお餅は格別です。子どもたちは、稲作体験を通して、労働の大変さと収穫の喜びを感じているようです。また、生き物調査は農業用水路で実施し、生息している生き物を観察します。フナ・モロコなどが捕れると子どもたちからは歓声の声。身近な生き物に触れられる貴重な体験です。

子どもの行事には保護者も参加し、地域の人同士の会話が弾むとのこと。今後も子どもが楽しめる行事を行い、多世代の繋がりを大切にしていきたいそうです。



花長コミュニティ協議会

住民とのふれ合いの場 「花長公民館まつり」

2015年3月に設立された花長コミュニティでは、活動の1つとして毎年10月に公民館まつりを開催しています。地域でお祭りののできる場所が、唯一公民館だったことから「公民館まつり」と名付けました。子どもから高齢者まで地域住民が参加して、模擬店やビンゴゲームなどの他、和太鼓の演奏や太鼓叩き体験を楽しんでいます。第4回のおまつりでは、コミュニティ設立時から運営に関わっている若い母親のアイデアで射的ゲームを加えたところ、子どもたちに大人気！また、第5回では、役員以外に8名の地域住民がスタッフとして加わり、皆さん大活躍してくれたとのこと。コミュニティ活動を始めた頃は、シニアの参加が目立ちましたが、最近では子育て世代が夫婦で関わり、イベントを盛り上げてくれるそうです。今後も、若い人の力やアイデアを借りながら、この地域に一つずつ楽しみを増やしていきたいとのこと。



甚目寺コミュニティ協議会

『つなぐ。たす。』をコンセプトに

毎月第2日曜日に甚目寺駅ロータリーで開催の「つなぐ市場」。この事業を通して地域の魅力を伝え、「人とモノ」「人と人」など地域の魅力をつないでいきます。回を重ねるごとに地元のお店、日常使いの製品やキッチンカー、アクセサリなどの店舗が増え、最初は駅の利用で立ち寄っていた方たちも、最近では「つなぐ市場」を目当てに訪れる方が増えているそうです。

企画運営スタッフには現役世代、子育て世代が加わり、打ち合わせでの会議用アプリの活用など、忙しい中でも効率的な運営を心がけているとのこと。活性化する駅前の様子に、新しいつながりが感じられます。これからもみんなでアイデアを出し合いながら地域の魅力を『つなぐ。たす。』ことで、地域活性化活動を行っていきそうです。 ※「つなぐ市場」は7月～9月は第2土曜日夜の開催です。



※活動については、
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、
一部活動の中止や延期などの対応をしています。



〈あま市健康づくりサポーター活き生き推進隊〉

毎月第3水曜日午前9時半より、甚目寺保健センターにて活動しています。主な活動は「カンタンレンジレシピ開発」「ウォーキング」「健康体操」。今年度は「ずっと We Love あま!体操」の習得と普及に力を入れるとのこと。あま市制作の「あま体操」プロモーションビデオにも出演しています。今後は依頼があれば出張指導も行っていきます。



第2回 市民の健康福祉を支える活動

今回紹介するのは、健康福祉活動を行う団体の皆さん。市民の健康増進や体力向上等健康福祉を支えるため、また会員同士の親睦のため、どのような活動が行われているか、その一部を紹介します。

健康福祉活動を行っているのは、
あま市ラジオ体操連盟/甚目寺観音ラジオ体操の会/
高齢者支援パールの会/定非営利活動法人リバイブ/
特定非営利活動法人ライフサポートみわ/手話・あま/
特定非営利活動法人ゆつたりホーム海部はすの里/
あまちゃんの会/特定非営利活動法人いち・たす・いち/
あま市アレルギーの会/秋竹ラジオ体操クラブ/
明るく美しく健康に生きる会/手話グループ美和/
スポーツ健康団体 BODYVATION/整膚和/
あま市健康づくりサポーター活き生き推進隊/
かのあーとの会/ JA 海部東なの花の会/
海部地域医療サポーターの会/
合計19団体(順不同)の皆さんです。

〈秋竹ラジオ体操クラブ〉

雨天と日曜日以外、藤島神社境内にて6時半より開始。活動の目的は、地域住民の健康意識を高めることと親睦を図ること。2018年度に作製した爽やかなドラゴンズブルーのユニフォームは、イベントなどで着用しています。これからも健康維持のため、毎日のラジオ体操を日課とするそうです。



〈特定非営利活動法人いち・たす・いち〉

「いち・たす・いち」が運営する、障がい者を含む混声コーラス「がらす・りたんず」は、毎月第2・4日曜日の午後1時半から甚目寺公民館にて練習しています。「歌う人が楽しいと、聴く人も楽しい！」をモットーに終始明るく和やかな雰囲気です。毎年、高齢者福祉施設やデイサービスを慰問して、心のこもった歌声を届けていましたが、昨年度はコロナ禍で活動が自粛。早く再開できることを心待ちにしているとのこと。



(S14 大阪毎日新聞広告記事より)



「門外不出」。このため、地区の地場産業に発展することはありませんでした。そんな中、寅次郎はスッポン養殖を軌道に乗せ、販売ルート拡大の先駆けとして東京上野に村上スッポン本舗をオープンさせ、さらに驚くことに、この店舗は老舗店として、今なお同所に健在です。

儲ければ、だれもが商売に食いつくようなものですが、スッポン養殖は、その土地の気候風土もさることながら、村上スッポンに限らず全国の養鰻場にとって、養殖技術は

「門外不出」。このため、地区の地場産業に発展することはありませんでした。そんな中、寅次郎はスッポン養殖を軌道に乗せ、販売ルート拡大の先駆けとして東京上野に村上スッポン本舗をオープンさせ、さらに驚くことに、この店舗は老舗店として、今なお同所に健在です。

さて、「こゝあま市で養殖に成功した寅治郎らは、この養殖場とは別に名古屋市西区に研究施設「村上スッポン理薬学研究所」を設け、スッポンスープの精製、血胆錠(生血を使った錠剤)の開発などその栄養価の高さを最大限に活かした商品を生み出します。その当時の様子が昭和十四年「大阪毎日新聞」村上養鰻(ようべつ)場由来記なる広告記事にありました。「寸刻の余暇もない奮闘の連続で苦心研究の結果、できあがりしましたスッポンスープは少量で多大の滋養価値を生み出す」と、その辛苦の日々がつづられています。この新聞広告から察するに、世は戦中、多くの生活必需品が配給制に移行される中、栄養価の高いスッポンが高級食材ゆえに限られた人にしか口にできないもどかしさから、寅治郎らをスープ等の開発に向かわせたのではと考えられます。参考までに昭和二十五年当時映画鑑賞大人一人八十円の時代に、スッポンは、百匁(もんめ)三百七十五グラム)当たり四百五十円で販売され、まさに高級食材であることがわかります。

努力の人、寅治郎

美和歴史民俗資料館

館長 近藤 博

2021年度 まちづくりサロン開催

あま市のまちづくりに関わる多様な市民が連携することを目的に、「ヒト」「モノ」「コト」「場」などの地域情報交換のサロンです。毎回テーマに沿って自由に話し合いませんか。どなたでもご参加できます、お気軽にお申込み下さい。

もっとあま市の魅力教えて!

まち歩きして、危険MAPつくりたいなあ

パパの子育て仲間がほしいなあ

かわいい花いっぱい公園してるよ!

7/3(土)まちの防災・防犯
8/21(金)子育てについて
12/18(土)環境について
R4/3/19(土)振り返り
毎回 10:00~11:30

活動団体情報募集中



「あまテラスニュースレター“あまがすき”」や市民活動センターのフェイスブック、公式LINEでは、登録団体のイベントや活動日の情報、またはメンバー募集、ボランティア募集などの情報を発信しています。掲載希望の情報がありましたら、早めにご連絡ください。(但し入稿の期限がありますので、ご了承ください。)

登録団体活動・イベントカレンダーはじめました!

掲載情報をお待ちしています。お気軽にお問い合わせください。



あまテラス情報発信のご案内

公式 LINE 登録お待ちしております

お友達登録をすると、センターからの最新情報をお届けします。

メルマガ会員募集

市民活動センターでは、毎月15日と30日にメルマガジンを配信しています。ぜひご登録を! QRコードを読み取り、お名前とメルマガ希望とメールしてください。



あまテラスに関するお問い合わせなど、お気軽にお寄せください。ホームページでは、日々、あま市の市民活動の最新情報をお届けしております。



で検索してみてください!

イベント、講座の最新情報はホームページで発信中!

URL <http://www.ama-shiminkatsudo.jp/>

発行:あま市市民活動センター あまテラス

所在地:あま市七宝町遠島十坪 119-2 七宝産業会館 1F

TEL:052-445-1900 FAX:052-445-2030

Mail:info@ama-shiminkatsudo.jp

開館時間:9時~17時

閉館日:毎週月曜、祝日の翌日 年末年始

